

人文社会科学部後援会保護者の皆様

近況報告と総会資料のご説明

人文社会科学部長・大学院研究科長
後援会副会長
原口 弥生

皆様には後援会の方針・活動にご理解・ご賛同をいただきお礼申し上げます。

先に皆様にお便りでご連絡した通り、今年度は原則、対面授業という授業体制に戻っています。これからも安全安心に最大限の注意を払いながら、学生の学修機会の充実を図りながら学部運営を行っていきたいと思います。

お便りのなかで、今年度も対面での総会は行わず、後援会のウェブサイトに資料を掲載してご意見などをいただくこととお伝えしました。

この度資料の準備出来ましたので別添のように掲載しております。私から概略をご説明いたしますが、ご意見ご質問などがございましたら、6月末までに下記までにご連絡ください。なお、記載内容については理事会・監事の承認をえていますことを申し添えます。

お問い合わせ先：hum-kouenkai@ml.ibaraki.ac.jp

◎令和3年度事業・会計

昨年度の決算は、収入が約742万円に対し、支出が約297万円で、差引残高が約445万円となりました（詳細は資料をご覧ください。以下同様）。

具体的な実施事業には、学生の教育研究活動、学生の就職活動のほか、学生の生活向上支援などがあります。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、実地学習への旅費支援等が一部困難になりましたので、別途、卒論資料購入に係わる補助を行うなど、可能な限り学生の教育研究活動の支援に努めました。

◎令和4年度事業・予算

加入状況は合計で1,462名です。

収入の約779万円に対し、支出は約317万円を計画しています。支出予定項目については事業一覧をご覧ください。

単年度の「事業・予算作成における方針」は例年と変わりありませんが、数年単位での事業・会計の見通しについて追加説明をいたします。

活動支援の運営を円滑にかつ安定的に行えるよう、毎年度末に100～200万円の残高を維持しておきたいと考えます。令和4年度においては、仮に全ての支出が執行された場合、年度末の残高は約462万円になります。残高にはまだ余裕がありますので、新型コロナウイルス感染が収束しまし、残高に目配りをしながら、有意義な活動をさらに展開していきたいと考えています。

◎令和 4 年度後援会役員

資料をご覧ください。

引き続き学生の安全を確保すべく最大限の対応をしてまいります。昨年度は、学外学修の機会が制限されていましたが、本年度は授業内外におきまして、新型コロナウイルス感染対策を行いつつではありますが、学外での実地研修等が開催される見込みです。学生が実りある生活を送れるよう教職員一丸となって進めていきたいと考えております。引き続きご理解のほどよろしくお願いいたします。